

II 主催事業

〔1-②〕「第3回 はやま森の学校」 ～見に行こう 新たな景色～



1. ねらい

- (1) 普段とは異なる自然の中での体験活動を通して、仲間と共に協力し、課題を解決し、豊かな人間性と社会性を育てる。
- (2) 日常生活とは異なる場所で初めて知り合う仲間と生活し、たくましく助け合いながら生きる力を育む。また、日常生活に感謝の念を抱かせる。
- (3) あらゆる体験を通して、自分に付いた力や友達と協力する大切さを知るとともに、自分を更なる高みへと成長させる心を育てる。
- (4) あらゆる活動において、子どもたちが積極的に取り組み様々な発見ができるよう促し、事象だけでなく、自分の新たな可能性を見いださせる。

2. 実施日

3月27日(土)～28日(日)

3. 対象者

小学校3年生～小学校6年生

4. 募集定員/応募人数/参加人数

24人/34人/24人

5. 「第3回 はやま森の学校」のスケジュール

1日目	3月27日(土)
10:30	受付
11:00	開校式
11:30	アイスブレイク
12:30	昼食(持参弁当)
13:30	班活動(めあてカード作り)
14:30	スウェーデントーチ作り
15:30	うどん打ち
16:00	自炊活動(カレーうどん作り)
18:50	キャンドルサービス
20:10	星座観察
20:50	班活動(1日のふり返り)
21:40	就寝

今回のキャンプテーマを『見に行こう 新たな景色』とし、キャンプ補助員はテーマに沿ったプログラムを考え森の学校に臨んだ。また第2回ははやま森の学校と同様に募集人数を例年の半分にしたり、消毒・手洗い・検温の徹底や3密を回避する活動内容も考えたりするなど新型コロナ感染症対策に今回のキャンプも努めるよう心がけた。

開校式では、多くの子どもたちが初めての友達と出会い、期待と不安、緊張する様子が伺えた。しかし、補助員が行うアイスブレイクでの様々なゲームを通して、子どもたちが徐々に打ち解け合い笑顔が見られるようになった。

続いての班活動ではグループリーダーのキャンプ補助員を中心に、この2日間の班の目標を決め、その目標を達成するために何をしていくことが大事なのかを子どもたちに話し合わせた。



そしていよいよ、初めての野外活動。スウェーデントーチ作りである。スウェーデントーチとはチェーンソー等を使って丸太に十字の切れ込みを入れ中央から火を付けることで丸太自体を焚き火台とする調理器具である。一通り説明を受けた後、チェーンソーで切り込みを入れる班と着火剤になる枯れ葉や木の実を探す班とに分かれて活動を進めた。チェーンソー体験では所員の介添えのもと、子どもたちが緊張しながら丸太に切り込みを入れていった。チェーンソーの大きな音にも驚いていたが徐々に慣れ班で協力してトーチを完成させることができた。



次は、うどん作りである。今回は既製品のうどん使うのではなく、小麦粉と水から生地を作り、切り分け手打ちうどん作りにチャレンジした。うどんを食べたことは誰しもあるが自ら作るのは、みんな初めてである。こしのある生地を作るために、力いっぱいこね

たり体重をかけて足で踏んだり、くたくたになりながらも楽しく作業を進めた。生地をねかしたあとを包丁で均等に切り分けた。均等の切り幅が難しく、様々な太さの麺ができたが、どの子どもとも満足げであった。その後、スウェーデントーチに火を付け、うどんを湯がき、同時進行で調理していたカレー鍋と合わせ手打ちカレーうどんを完成させた。「いつもより美味しい。」「最高。」という会話の中、お腹いっぱい笑顔いっぱいの自炊活動となった。

キャンドルサービスでは、補助員のゲームに全員が楽しみ、最後に手渡されたロウソクに一人一人が火を灯した。それぞれが新たな友達との出会いから今日一日の喜び、驚きを回想し明日への思いを深めた。

星座観察はあいにくの曇り空となり、事前に用意していた段ボールプラネタリウム作りを行った。子どもたちは補助員が話す各星座にまつわる神話等を興味深く聞きながら、段ボールをのぞき込み想像を膨らませた。

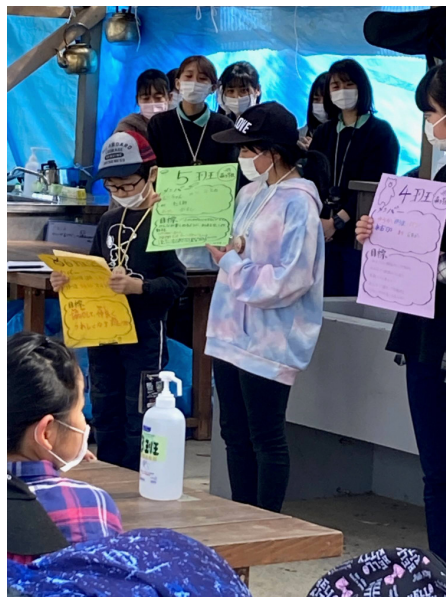
2日目	3月28日(日)
6:00	起床
6:40	朝の集い
7:00	朝食(カートンドック作り)
8:00	清掃
8:45	活動(自然オリエンテーリング)
11:00	昼食
11:40	活動(写真立て作り)
12:20	班活動(ふり返り)
13:30	閉校式



2日目のメインプログラムは、補助員が吐山の大自然を基に様々な工夫を施した自然オリエンテーリング。木の匂いや手触りから正解の樹木を当てたり、木の実を使って指定された工作をするなど、子どもたちは普段できない体験に班の仲間と色々な知恵を出し合い意欲的に活動を進めていた。また、ミッションを正解するごとにキーワードが獲得でき、キーワードの場所を推測しながらセンター内を元気いっぱい歩き回っていた。ゴールの古墳内に設置された宝箱を見て、子どもたちは大喜び。そして身近にある木々や植物で

こんな楽しいことができるんだと植物の不思議と偉大さを実感することができたプログラムとなった。

最後の活動である班でのふり返りでは、グループリーダーの補助員の声に班のみんなが、しっかりと耳を傾け、この2日間を通して学んだことを出し合った。班ごとの発表では「仲間のために頑張れた。」「協力できた。」「時計を見て早く行動することができた。」「自分たちで考えながら動くことができた。」など多くの意見が出され交流を更に深めることができた。



6. まとめ

あつという間の1泊2日間。様々な活動を通して、たくさんの知識や経験を深め、友達と協力することの大切さを感じてくれたのではないかと考える。また班活動のふり返りを通して個人やグループのめあてをもとに良い点や課題を出し合い学びや気づきを高め合うこともできた。閉校式では、初日よりもたくましい面持ちに笑顔溢れる子どもたち。この森の学校での学びを、またこれからの生活にどんどん活かしてほしいと願う。

